

授業科目名	刑事法演習Ⅱ	期別	前期	授業形態	演習
担当者名	平江 徳子	単位数	2	開講年次	3 (19台以前)

#### 授業科目の概要

刑事訴訟法上の論点を含んだ具体的な事例について、各受講生が、法律上の問題点、問題点に対する見解とその理由、関連する判例・学説について事前検討を行い、毎回レポートとして提出した上で、授業において意見交換をする。

#### 到達目標

- (1) 具体的な事例について、法律的な観点から整理し、刑事訴訟法上の問題点を抽出できる。
- (2) 具体的な事例について、刑事訴訟法および関係法規の文言解釈を行い、法を正確かつ適切に適用できる。
- (3) 具体的な事件・事例において、判例・学説の理論がどのように機能しているかが理解できる。
- (4) 具体的な事例について、問題点を抽出し、条文の文言解釈を行い、事実を分析、評価して法を適用し、妥当な結論を導く理論構成をレポートとしてまとめる論述の能力を身につける。

#### 成績評価基準および方法

レポートの提出 50%、中間テスト 30%、平常点（授業における議論への参加等）20%の割合で評価する。  
評価の基準は、事例の問題点を的確に把握し、条文解釈等を適切に行い、事実を分析、評価して法を適用し、妥当な結論を導くことができるか否かであり、絶対評価を行う。

#### テキストおよび参考文献

事例問題は、授業前にメールないし書面により受講生に配布し、レジュメ、関連する文献等についても、授業前あるいは授業時に適宜配布又は紹介する。

#### 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

教員が提示した具体的な事例の問題点、判断枠組みを十分に調査・検討した上で、法的判断および結論に至る過程を論理的に記述したレポートを作成すること（2時間ないし3時間）。授業では積極的に発言し、意見交換を行うようにすること。授業後においては、学修した分野について基本書や判例を読み返す、レポートを書きなおすなどの復習をすること（2時間程度）。

#### 授業計画および内容等

第1回	事例検討(1)	初動捜査（職務質問、所持品検査、任意捜査）等
第2回	事例検討(2)	任意捜査と強制捜査の区別等
第3回	事例検討(3)	現行犯逮捕、準現行犯逮捕等
第4回	事例検討(4)	令状による搜索差押(1)

第5回	事例検討(5)	令状による搜索差押(2)
第6回	事例検討(6)	逮捕に伴う搜索差押等
第7回	中間テスト1 およびその解説	捜査法全般
第8回	事例検討(7)	訴因(1) 訴因の特定、起訴状一本主義等
第9回	事例検討(8)	訴因(2) 訴因変更の要否、訴因変更の可否等
第10回	事例検討(9)	伝聞法則とその例外(1)
第11回	事例検討(10)	伝聞法則とその例外(2)
第12回	事例検討(11)	伝聞法則とその例外(3)
第13回	事例検討(12)	違法収集証拠排除法則等
第14回	事例検討(13)	自白法則、自白補強法則等
第15回	中間テスト2 およびその解説	公判手続・訴因・証拠法全般
<b>関連 URL</b>		
<b>備考欄</b>		